

『どうしてかわかる?』世界のなぞかけ昔話 I (EFシ)

ジョージ・シャノン/文 ピーター・シス/絵 福本 友美子/訳 晶文社

世界各地に伝わるむかし話が14編。「なぜなのかな?」とおもわず首をかしげたくなるなぞかけが次々と出てくるよ。

まず一話目は、「魚つり」。つれた魚の数が、どうしてもあわない。

お話のどこかにきっと答えがかかっている。

ちえをしぼって、言葉のトリックを見やぶろう。



シリーズは全3巻あります。
『あたまをひねろう!』(EFシ)
『やっとわかったぞ!』(EFシ)
どの巻もなぞかけ話が14編のってるよ。
きみはいくつとけるかな?



おはなしの庭

日時:令和6年12月26日(木)
10:30~11:00
内容:東京子ども図書館の
浅見和子さんによるすばなし
場所:中央図書館 2階
おはなしのへや
対象:5歳から小学生とその保護者
定員:20名程度(先着順)
申込み:12月12日(木)9:30から
中央図書館へ(電子申請・電話可)

ビブリオバトル

日時:令和6年12月22日(日)
令和7年1月26日(日)
15:00~16:00
内容:1人5分間で、おすすめの本を
紹介しあうゲーム
場所:狭山台図書館 2階 視聴覚室
対象:小学生以上
申込み:不要
持ち物:おすすめの本1冊



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。
休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801
狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



毎月23日は「家庭読書の日」 狭山市教育委員会

よむぞうタイムズ

89号

3年生 4年生

狭山市立図書館 2024.12.15 発行

もうすぐ冬休み。2週間でどんなことをしてみたい?

一生けん命考えたら、

なにかいいアイデアがうかぶかも。

まずは、頭がよく働くように

こんな本を読んでみて!



『あたまをつかった小さなおばあさん』(JSニ)

ホープ・ニューウェル/作 松岡 享子/訳 山脇 百合子/画 福音館書店

小さな家にすむ、小さなおばあさんの口ぐせは「つかわないなら、あたまなんてもってたって、なんのやくにたつね?」おばあさんはこまったことがあると、いつも頭を使ってかい決してきた。

ある時、おばあさんは冬にそなえて暖かいふとんがほしくなった。

ところが、買ってきたのは12ひきのがちょう。
がちょうで暖くなる方法ってあるのかな?



『あたまをつかった小さなおばあさんがんばる』(JSニ)

『あたまをつかった小さなおばあさんのんびりする』(JSニ)

ホープ・ニューウェル/作 松岡 享子/訳 降矢 なな/絵 福音館書店

こちらの2冊も、おばあさんが頭をつかってだいかつやくするよ。

『しりとりボクシング』(JP A)

新井 けいこ/作 はせがわ はっち/絵
小峰書店



恭平たちは学年行事でしりとり大会をすることになった。しりとりは「ことばの最後に【ん】がつかなければだいじょうぶ」なんて思っていたら大まちがい。細かいルールもあるし、相手がこまるようなことばで

攻めていかなきゃ勝てないんだ。もちろん、守りにだって手をぬけない。大会までは、あとわずか。友だちの健太と特訓開始だ！

『火曜日のごちそうはヒキガエル』(JS E)

ヒキガエルとんだ大冒険 I
ラッセル・E.エリクソン/作
ローレンス・ディ・フィオリ/絵 評論社



ヒキガエルのウォートンが、ミズクにつかまっちゃった。連れていかれたのは、木のてっぺんにある穴の中。「火曜日までのお客さまだからな」どうやらミズクはウォートンを6日後の自分の誕生日に食べるつもり

ようだ。けがした足ではにげられない。どうするウォートン。いつものように考えろ。『ヒキガエルとんだ大冒険』シリーズは、全7巻あります。

『しわしわかんぶつおいしいよ』(EL M)

水上 みのり/さく 福音館書店



おばあちゃんの家で見つけたしわしわの食べ物。「かんぶつ」って言うらしい。水につけると、びっくりするほどふえてくる。

たくさんとれた食べ物をむだにしないために、乾燥させておいたんだ。干すとうまみも栄養もぎゅっとつまる。昔の人の知恵ってすごいね。みんなもかんぶつを食べてみようよ。

『ふしぎなたね』(EM A)

安野 光雅/作 童話屋



男がせんにんからもらった2このタネ。1こ食べれば、1年間なにも食べなくてもだいじょうぶ。

もう1こは、うめておけば来年かならず2このタネがなるという。

男は毎年2このタネを

収穫したが、ある年いいことに気がついた。

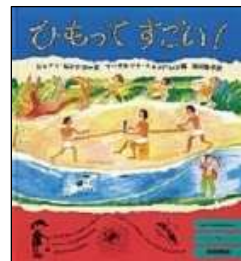
「タネを2こともうめてみよう」

さて、どうなるのかな？

『ひもってすごい!』(EL F)

ジュディ・ヒンドリー/文
マーガレット・チェンバレン/絵
掛川 恭子/訳 岩波書店

いろんなことに使えてとっても便利な「ひも」。いつどんなふうにして、生まれたんだろう？ ひもがなかったころ、魚はなにでつったのかな？ 服はどうやってぬったのかしら。きっと大昔の人が「ひもがあったらいいのにな」と思って、いろいろなものを使ってくりかえし試してみただね。きみはどんなことに「ひも」を使う？



『ジャングルの少年』(JS E)

チポール・セケリ/作 高杉 一郎/訳
松岡 達英/画 福音館書店

アマゾン川で船が難破した。乗客は川岸に避難したけれど、ジャングルには危険がいっぱい。おまけに食料も全くない。困っていると、弓矢を持った少年が助けに現れた。

まだ子どもじゃないかと言う人に少年は「魚は長さで測る。人間、知恵で測る」と答えるのだった。少年がジャングルから学んだ大切なことを教えてくれる一冊。

